

経専調理製菓専門学校（調理師専攻科）の

人材育成目的・教育目標及び各ポリシー

■人材育成目的

本校は、学生が就職3年後に、学校で身につけた専門的な基礎知識・技術を駆使しながら、社会人基礎力を磨き、職場で重要な戦力となり、活躍していることを育成目的とします。具体的な就職3年後の姿として、新メニューの開発を自ら考えて提案できる人材・任された仕事を計画的に行い、改善提案ができる人材・後輩指導ができる人材を目指します。

※重要な戦力とは責任感と探究心、及びリーダーとしてのスキルを持って活躍していることで、具体的な就職3年後の姿に相当します。

■教育目標

本校は、就職3年後の姿を見据え「現場力のある人材＝就職後に伸びる人材」を育成する。その為に、専門職業力（専門職としての基礎力）、社会人基礎力（社会人としての基礎力）、高い職業意識と意欲（プロ意識と成長・自己実現に向けた意欲・力）の現場3要素を徹底育成（能力や意欲の違いを把握した上で、学生個人が持っている能力を最大限に引き出し修得目標達成のために責任を持って指導）することで、社会に貢献できる思いを持った人を育成する」ことを教育目標とします。

【教育目標を達成するための具体的な修得目標】

専門職業力……………調理師免許を取得するために必要な、知識とあらゆるジャンルに対応できる基礎技術を身につけ、それを活用して食に関わる業界を豊かにする担い手としてお客様に提供できる商品を作る力。

社会人基礎力……………社会人として必要なルールとマナー、主体性、創造力、チームワーク力。

高い職業意識と意欲…学んだ知識と技術を実践し、お客様に満足していただく商品を提供することを成し遂げようとする力。

■ディプロマ・ポリシー（卒業認定・専門士称号に関する方針）

本校の定めるカリキュラムを履修し、教育目標に掲げる専門職業力（専門職としての基礎力）、社会人基礎力（社会人としての基礎力）、高い職業意識と意欲（プロ意識と成長・自己実現に向けた意欲・力）の現場力3要素を修得し、現場力のある人材＝就職後に伸びる人材として認められる学生に対し卒業を認定し専門士を授与します。

■カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

本校は、教育目標に掲げる修得目標などを修得させるために、専門知識系科目と専門技術系科目及びその他必要な科目を体系的に編成するとともに、座学、実習等を適切に組み合わせた授業を開講し、下記の方針に基づきカリキュラム編成を行います。

【1】「専門職業力（専門職としての基礎力）」についての方針

専門職業力としての知識と技術は、調理師免許の取得に必要な法令で定める教科目に加え、飲食業界で必要とされる、衛生面や食品の正しい知識と正確な包丁・器具・用具の使い方の基礎力、安全でクオリティーの高い商品を創意工夫して作る応用力を養成するため、教育課程編成委員会に確認しながら、必要に応じて教科目及びシラバスの見直しを行い最新の知識と技術が習得できるカリキュラムを編成します。

【2】「社会人基礎力（社会人としての基礎力）」についての方針

社会人基礎力は、社会人に求められるマナーの習得を基本とし、現場で求められるコミュニケーション力を養うため、座学科目においてはグループワーク、実習科目において共同作業（チームワーク）を通して技術職としてコミュニケーション力の必要性を自覚させ実践できるカリキュラムを編成します。

【3】「高い職業意識と意欲（プロ意識と成長・自己実現に向けた意欲・力）」についての方針

高い職業意識と意欲の育成のために、学内での学びが業界でどのように活かされるのかをイメージでき、且つ実践できる環境を整えるため、販売実習や企業訪問を行うカリキュラムを編成します。それによりプロフェッショナルとしての意欲を高め、企業実習にて主体的に取り組めるようにします。

■アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

本校では、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに基づき、現場力のある人材=就職後に伸びる人材を育成します。その為に、専門職業力（専門職としての基礎力）、社会人基礎力（社会人としての基礎力）、高い職業意識と意欲（プロ意識と成長・自己実現に向けた意欲・力）の現場力 3 要素を徹底育成することで、社会に貢献できる思いを持った人を育成することを教育目標としていることから、本校では下記のような学生を求めます。

- ① 調理師を目指すという目的意識を持ち、自己実現に向けた意欲のある人
- ② 明るく元気で挨拶や言葉遣いがハキハキとしている人
- ③ 高校卒業レベルの基礎学力を持つとともに、人をよろこばせることが好きで、相手を思いやる行動をとれる人

このような学生を適正に選抜するために多様な選抜方法を実施します。

経専調理製菓専門学校（製菓パティシエ科）の

人材育成目的・教育目標及び各ポリシー

■人材育成目的

本校は、学生が就職3年後に、学校で身につけた専門的な基礎知識・技術を駆使しながら、社会人基礎力を磨き、職場で重要な戦力となり、活躍していることを育成目的とします。具体的な就職3年後の姿として、勤務する企業（店舗）の商品を理解し、発注ができ、商品製造・新商品開発ができる人材・任された仕事を計画的に行い、在庫やシフトなどの管理業務や改善提案ができる人材・後輩指導ができる人材を目指します。

※重要な戦力とは責任感と探究心、及びリーダーとしてのスキルを持って活躍していることで、具体的な就職3年後の姿に相当します。

■教育目標

本校は、就職3年後の姿を見据え「現場力のある人材＝就職後に伸びる人材」を育成する。その為に、専門職業力（専門職としての基礎力）、社会人基礎力（社会人としての基礎力）、高い職業意識と意欲（プロ意識と成長・自己実現に向けた意欲・力）の現場3要素を徹底育成（能力や意欲の違いを把握した上で、学生個人が持っている能力を最大限に引き出し修得目標達成のために責任を持って指導）することで、社会に貢献できる思いを持った人を育成する」ことを教育目標とします。

【教育目標を達成するための具体的な修得目標】

専門職業力……………製菓衛生師の資格を取得するために必要な、知識と製菓・製パンの基礎技術を身につけ、それを活用して製菓・製パン業界を豊かにする担い手としてお客様に提供できる商品を作ることができる力。

社会人基礎力……………社会人として必要なルールとマナー、主体性、創造力、チームワーク力。

高い職業意識と意欲…学んだ知識と技術を実践し、お客様に満足していただく商品を提供することを成し遂げようとする力。

■ディプロマ・ポリシー（卒業認定・専門士称号に関する方針）

本校の定めるカリキュラムを履修し、教育目標に掲げる専門職業力（専門職としての基礎力）、社会人基礎力（社会人としての基礎力）、高い職業意識と意欲（プロ意識と成長・自己実現に向けた意欲・力）の現場力3要素を修得し、現場力のある人材＝就職後に伸びる人材として認められる学生に対し卒業を認定し専門士を授与します。

■カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

本校は、教育目標に掲げる修得目標などを修得させるために、専門知識系科目と専門技術系科目及び

その他必要な科目を体系的に編成するとともに、座学、実習等を適切に組み合わせた授業を開講し、下記の方針に基づきカリキュラム編成を行います。

【1】「専門職業力（専門職としての基礎力）」についての方針

専門職業力としての知識と技術は、製菓衛生師受験資格に必要な法令で定める教科目に加え、製菓製パン業界で必要とされる、衛生面や食品の正しい知識と正確な器具・用具の使い方の基礎力、安全でクオリティーの高い商品を創意工夫して作る応用力を養成するため、教育課程編成委員会に確認しながら、必要に応じて教科目及びシラバスの見直しを行い最新の知識と技術が習得できるカリキュラムを編成します。

【2】「社会人基礎力（社会人としての基礎力）」についての方針

社会人基礎力は、社会人に求められるマナーの習得を基本とし、現場で求められるコミュニケーション力を養うため、座学科目においてはグループワーク、実習科目において共同作業（チームワーク）を通して技術職としてコミュニケーション力の必要性を自覚させ実践できるカリキュラムを編成します。

【3】「高い職業意識と意欲（プロ意識と成長・自己実現に向けた意欲・力）」についての方針

高い職業意識と意欲の育成のために、学内での学びが業界でどのように活かされるのかをイメージでき、且つ実践できる環境を整えるため、販売実習や企業訪問を行うカリキュラムを編成します。それによりプロフェッショナルとしての意欲を高め、企業実習にて主体的に取り組めるようにします。

■アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

本校では、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに基づき、現場力のある人材=就職後に伸びる人材を育成します。その為に、専門職業力（専門職としての基礎力）、社会人基礎力（社会人としての基礎力）、高い職業意識と意欲（プロ意識と成長・自己実現に向けた意欲・力）の現場力 3 要素を徹底育成することで、社会に貢献できる思いを持った人を育成することを教育目標としていることから、本校では下記のような学生を求めます。

- ④ パティシエ・ブーランジェを目指すという目的意識を持ち、自己実現に向けた意欲のある人
- ⑤ 明るく元気で挨拶や言葉遣いがハキハキとしている人
- ⑥ 高校卒業レベルの基礎学力を持つとともに、人をよろこばせることが好きで、相手を思いやる行動をとれる人

このような学生を適正に選抜するために多様な選抜方法を実施します。